

再処理工場のウラン試験時に発生が予想されるトラブル等とその対応 (No. 3 - 57)

件名	壁の穴あけ(コアボーリング施工)による埋設電線管切断に伴う火災警報の発報			
事象の概要	<p>(1) 発生場所: 機器 分析建屋</p> <p>(2) 発生の状況 ダクト改造工事作業中</p> <p>(3) 概要 ダクト改造工事に係る壁貫通配管施工のため、壁の穴あけ(コアボーリング施工)を行った際、誤って火災感知器につながる埋設電線管を切断し、火災警報が発報</p> <p>*他の建屋も含め同種の作業においても、同様な事象の発生が予想される。</p>			
事象による影響	<p>(1) 工場外への影響 工場外への影響は生じない。 建屋換気設備が稼働している室内での事象及びそれに伴う復旧作業なので、放射性物質の放出等の工場外への影響は生じない。</p> <p>(2) 安全性への影響 安全上の問題は生じない。 火災警報の発報は、運転に直接関係するものではなく、これ以上の事象の進展はない。</p> <p>(3) 作業員への影響 作業員への影響は生じない。 埋設電線管の復旧にあたっては定められた放射線管理要領に従い、作業計画に沿って効率的に作業を進めることにより、作業員への影響は生じない。</p> <p>(4) 他工程への影響 他工程への影響は生じない。 改造工事にあたっては、関連する設備は予め停止するため、他工程への影響は生じない。</p>			
対応の概要	<p>(1) 破損状況を確認する。</p> <p>(2) 定められた保守作業手順に従って、破損箇所の保守を行い、復旧する。 保守作業中は、火気監視員を常駐させる。</p> <p>(3) 保守終了後、復旧箇所に異常のないことを確認し、予め定められた操作手順により運転を再開する。</p>			
公表区分	翌平日に公表(ホームページへ掲載)			
対応区分	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; vertical-align: top;"> (a) 運転継続しながら復旧 (b) 運転システムを切り替えて復旧 (c) 当該機器を停止して復旧 (d) 当該設備を停止して復旧 (e) 影響範囲の設備を停止 </td> <td style="width: 20%; vertical-align: top;"> 国際評価尺度 (INES) のレベル 日本原燃による評価: レベル0以下 </td> <td style="width: 60%; text-align: center;"> <p>0以下 1 2 3 4 5 6 7</p> <p>(レベル2以下は工場外への影響はない)</p> <p>放射物質の外部放出 工場外への影響</p> <p>放射物質による汚染、被ばく等 工場内への影響</p> <p>多重防護の劣化</p> </td> </tr> </table>	(a) 運転継続しながら復旧 (b) 運転システムを切り替えて復旧 (c) 当該機器を停止して復旧 (d) 当該設備を停止して復旧 (e) 影響範囲の設備を停止	国際評価尺度 (INES) のレベル 日本原燃による評価: レベル0以下	<p>0以下 1 2 3 4 5 6 7</p> <p>(レベル2以下は工場外への影響はない)</p> <p>放射物質の外部放出 工場外への影響</p> <p>放射物質による汚染、被ばく等 工場内への影響</p> <p>多重防護の劣化</p>
(a) 運転継続しながら復旧 (b) 運転システムを切り替えて復旧 (c) 当該機器を停止して復旧 (d) 当該設備を停止して復旧 (e) 影響範囲の設備を停止	国際評価尺度 (INES) のレベル 日本原燃による評価: レベル0以下	<p>0以下 1 2 3 4 5 6 7</p> <p>(レベル2以下は工場外への影響はない)</p> <p>放射物質の外部放出 工場外への影響</p> <p>放射物質による汚染、被ばく等 工場内への影響</p> <p>多重防護の劣化</p>		

本事象は当該機器停止時の改造工事作業中に発生したものであるため対応区分該当なし。

